

令和6年度 学校運営自己評価報告書

令和7年4月

岐阜県立衛生専門学校

1 本校の教育理念

資料1

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。

2 令和6年度組織（所属）目標及び目標項目、目標値と実績

1) 質の高い教育と教職員の育成

資料13, 18-21

(1) 教育方法の発展

①研究授業の実施

- 新たに第二看護学科と歯科衛生学科、歯科衛生学科と多治見看護専門学校とで、学科および学校を超えて多職種連携の合同授業を行った。事前に目標達成のための教育内容および方法について検討を重ねたうえで授業参観を行い、終了後は授業リフレクションを行った。
- 助産学科と第一看護学科では、前年度までの授業評価結果から、教員間の事前調整や授業方法の検討を行い、改善につなげた。
- 歯科技工学科では、科目のつながりを意識した横断的学習ができるような教育方法について学科内で検討した。

②学科を超えた授業参観の実施（1回以上／年）

- 学科を超えた授業参観は、3学科にて実施した。

(2) キャリアラダー

研修の受講

- 教員における研修については、教育力や実践力向上につながるテーマを選択し、概ね計画通りに受講し、適宜科内で研修報告を行った。
- 第二看護学科では、専任教員1名、実習指導教員1名が医療機関において実務者研修を行った。また、歯科衛生学科では、歯科医院、在宅医療クリニックおよび障がい者施設において教員全員が実務研修を行った。

(3) 研究能力の向上

研究授業や教材研究の成果の発表（職場研修、学会等）

- 11月、第二看護学科と歯科衛生学科が行った合同授業では、岐阜県看護教育機関連絡協議会主催の授業参観にエントリーし、他校の教員5名の参観があり意見交換した。

2) 入学生確保の推進

資料8, 12

(1) 令和7年度志願者数（ ）は前年度

- 助産学科 目標：40名 実績：41名（54名）
- 第一看護学科 目標：100名 実績：49名（81名）
- 第二看護学科 目標：60名 実績：36名（36名）
- 歯科技工学科 目標：20名 実績：17名（11名）
- 歯科衛生学科 目標：30名 実績：36名（44名）

※過去5年間の数値から近年の傾向を鑑み、学科ごとで基準を設定（歯科技工学科、歯科衛生学科は定員数）

- (2) 令和7年度入学者数（）はR6年度
- ・助産学科 目標：16名以上（8割） 実績：9名（14名）
 - ・第一看護学科 目標：40名 実績：25名（35名）
 - ・第二看護学科 目標：40名 実績：20名（27名）
 - ・歯科技工学科 目標：16名以上（8割） 実績：14名（10名）
 - ・歯科衛生学科 目標：24名以上（8割） 実績：24名（24名）
- ① 高等学校訪問・・・・・・・歯科系学科は県内の高校29校へ訪問
 募集要項や学校説明会の開催案内を送付
 （高校82校、看護系大学・専門学校25校、計107校）
- ② 訪問型学校説明会・・・・・・・第二看護学科が准看護学校6校に訪問し、61名参加
- ③ オープンキャンパス・・・・・・・6～7月土曜日に各学科1回実施
 （参加者）助産学科：68名（うち同伴者13名）
 第一看護学科：103名（うち同伴者69名）
 第二看護学科：27名（うち同伴者2名）
 歯科技工学科：13名（うち同伴者12名）
 歯科衛生学科：41名（うち同伴者29名）
- ④ 学校説明会・・・・・・・来校型 2回実施
 （参加者）歯科技工学科：9組
 歯科衛生学科：31組
- ⑤ 進路説明会・・・・・・・40件依頼があったうち21件参加
- ⑥ 出身校への手紙・・・・・・・第二看護学科1年生が出身校に訪問し近況報告とともに手紙を持参
- ⑦ 入学生アンケートの実施・・・5月下旬に入学生全員（休学者除く）対象に実施

3) 防犯・防災に係る危機管理体制の整備

資料20, 22

（1）危機管理体制整備

防災訓練の計画立案と実践

- ・4月の新入生を迎えた時期に火災や地震を想定した消防訓練と避難訓練を実施した。また、避難経路とともに消火器の設置場所を確認するように周知した。
- ・9月「学校における防災について」の職場研修を行った。

防犯、防災備品等の予算化

- ・防犯、防災備品等については、保管状況を点検した。

（2）備蓄食材の整備

職員、学生共に必要物品の整備

- ・学生の備蓄については、各自一食分の非常食の準備と、災害用品の整備の呼びかけを行った。災害時は学校に留めることなく移動等の安全が確認できしだい帰宅させることを想定している。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

学校運営自己評価は、9月と12月に実施し、評価はリッカート尺度で5段階（5よい、4ややよい、3普通、2やや不十分、1不十分）で評価し、各項目の平均評価点（5点満点）を算出した。

1) 学校経営

資料 1～7

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。 ・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。 ・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表しているか。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。 ・管理職のリーダーシップのもと、係長又は教務主任が部署をまとめ、問題解決に当たっているか。 	4. 7

- ・年度初めに中期目標（令和4年～令和7年）に基づき、令和6年度の組織目標、目標値を策定し、全職員にメール配信により周知した。また、職員会議、学科会議にてその内容を確認した。
- ・職員による学校評価を9月と12月に実施し学校のビジョンや組織目標等の学校経営方針は、全職員が理解していることを確認できた。中間評価結果についても共有し、後期の学校運営に反映させた。加えて、学生による学校評価は、12月に実施し、今年度よりLogo フォームを利用して実施した。
- ・学校関係者評価委員会は、第1回は8月に開催し、令和5年度学校評価結果を報告し、委員から多くの意見をいただいた。意見はとりまとめ、改善・対応策とともに第2回学校関係者評価委員会（10月書面会議）で報告し、今後の教育活動、学校運営に繋げるようにした。
- ・管理職は係長や各教務主任と連携し、教職員の業務進度や心身の状況把握をはじめ、各学科の出来事（特にトラブル）をタイムリーに共有し、課題解決やトラブル回避の対策強化に努めた。

○課題

- ・9月に学校関係者評価を受け、意見に対する手立てを実践する時間が11月以降と遅くなっている。

○改善策

- ・学校関係者評価委員会の開催時期を早め、上半期中には学校運営に反映できるようにする。

2) 学科運営

資料 13, 18～19

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時に持つべき資質を教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。 ・授業計画（シラバス）が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。 ・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。 ・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント、アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。 	4. 3

- ・各学科、教育目標に照らし、卒業時の到達度を評価につなげている。加えて看護学科においては新カリキュラムで学んだ学生が令和6年度に卒業を迎える、多角的な視点でのカリキュラム評価を進めているところである。
- ・ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを学生便覧に掲載し、学生個々が意識しながら学習ができるように支援している。
- ・教育課程と学生の学びに整合性があるか、授業アンケートなどを用いて評価し、アンケート結果は学科内で共有し、翌年のシラバス内容や教育方法の見直しにつなげている。
- ・効果的な授業運営のために多くの学科で1ヶ月以上前に学生へ配布できるよう努めているが、翌月1～2週間前に配布する学科もあった。学生の事前準備等ゆとりをもって行えるようにするために、引き続き1か月前に配布できるよう努力していく。
- ・学生の単位取得に向け、学生の特性に合わせた指導を実施し、成績不良者、欠席の多い学生には履修状況や理解の程度を確認し、学科内で効果的な支援方法を検討している。また、必要時には保護者と連携を図っている。
- ・ストレスの高い学生も少なくないことから、看護系の学科では実習記録の見直しによる負担軽減や実習中の他教員の巡回による見守りを強化、休養や睡眠の把握及び承認の言葉掛けなどプラスのフィードバックを心掛けた。
- ・歯科技工学科では、カリキュラム外の時間に教室の巡回を行い、学生の様子を見ながら個に応じた支援を行った。

○課題

- ・学生が求める時間割の早期配布に対応できていない学科がある。
- ・看護系では新カリキュラムによる学生の卒業を受け、卒業時に身についた能力等の評価・分析が必要である。歯科系学科も含めてカリキュラム評価を継続していく必要がある。

○改善策

- ・時間割を1ヶ月以上前に配布できるように意識して作成する。
- ・卒業時の目標到達度および卒業後の実践力活用状況を評価し、学科運営に活かす。
- ・引き続き科目終了ごと、目標到達状況、教育方法などを見直し、次年度の学科運営に活かす。

3) 入学・卒業対策

資料8～13

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの応募者を確保することに努めているか。 ・国試の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。 ・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。 ・卒業生への支援を行っているか。 ・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。 	4. 5

- ・人材確保・就業対策部会において、年間計画を立案し活動を行った。
- ・入学生確保の結果については、歯科衛生学科が目標値と同程度の入学生が確保できたが、他の学科は目標値を下回った。志願者数については、助産学科、歯科衛生学科が目標値を上回った。全体的に高い目標値でしたが、2学科で目標値を上回ったことは、様々な学生確保のための取り組みの効果によるものと考える。しかし、すべての学科で定員数は満たしていないため学生確保が困難な状況は続いている。
- ・卒業生支援については、例年、卒業生交流会の参加率が低いため、個別で来校しやすい環境の提供として、在学中に使用していたOCNメールを活用し、卒業生へ学校から投げかけをする活

動を実施した。メールを受け取った卒業生から近況報告のメッセージが送られてきたり、複数名が学校を訪ねてくれたりした。さらに、卒業生へ文化祭の参加を呼び掛ける試みを実施し、4名の参加があった。文化祭を楽しみながら近況報告をするなど卒業生支援として効果的だった。引き続き、メール等の呼びかけを継続し、卒業生が気軽に学校へ相談できる体制を整えていく。

- ・国家試験合格率は全学科100%であった。
- ・県内就業率は、助産学科が100%、第一看護学科が95%、第二看護学科では91.7%、歯科技工学科は60%、歯科衛生学科は94.4%であった。歯科技工学科以外は概ね90%以上、全体では平均約88.2%が県内就業であることから総じて目標到達はできたと言える。

○課題

- ・志願者数は2学科、入学者数は1学科で目標値と同程度確保できたが、それ以外の学科では目標値を下回る状況が続き、定員数の確保はできていない。

○改善策

- ・18歳人口の減少は益々進んでいくと思われるため、対象は現役生のみならず、社会人等で各医療職を目指したい人を幅広く確保するための対策を検討する。また、医療職、専門職を目指すものとしての適性も鑑みながら、入学試験の検討を行い、学生確保の活動を行っていく。
- ・人材確保・就業対策部会の活動を継続し、ホームページの充実やSNSによる広報活動を積極的に行っていく。

4) 学生生活への支援

資料7, 9, 13~18

評価項目	評価点
・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。 ・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。	3.9

- ・学生による学校評価や卒業生と語る会などを通して直接施設の状況を聞くことができる機会を設けている。そのような機会を通して学生個々が主体的に情報収集をしているが、一部の学生は進学・就職に関するFollowについては万全ではないと感じている。
- ・気がかりな学生には、こころの相談室や専門医の受診を勧めた。こころの相談室の利用者は延べ25名で昨年と比較し増加した。相談者が増加した理由として、今年度からストレスチェック(3回/年)を導入し、スクールカウンセラーから直接の勧めがあったことで「受けてみようかな」と前向きにカウンセリングを受け止めしたことやQRコードを用いた申込方法の変更により、気兼ねなく利用できるようになったことが大きく作用している。
- ・学校医については、健康診断の結果、学生の疾病に関する相談などで助言を得ることができた。

○課題

- ・進学、就職などの進路に関して学生の相談に対するフォローを十分に行っていないと感じている学生もいる。
- ・学生の抱える問題や課題は多岐にわたり、こころの相談室の利用者も増えていることから、教員にも様々な対応が求められる。

○改善策

- ・進学、就職などの進路相談がしやすい環境づくりや、就職試験への心構えに関する学習会や

模擬面接の開催など学生のニーズに合わせ、教育課程外の時間の活用を検討する。

- ・スクールカウンセラーと密に連携を図り、学生の情報を共有しながら対応を行う。また、教員の不安についても日常的にスクールカウンセラーに相談できるよう調整する。

5) 教職員の育成

資料 19～21

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none">・学校の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。・学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。・教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制を整えているか。・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。	4.0

- ・学校の抱えている課題や時事問題などを取り上げ、職場内研修を13回／年実施し、その解決に向けた知見を広げるなど各職員に働きかけを行った。
- ・第二看護学科、歯科衛生学科が協働し、岐阜県看護教育機関連絡協議会主催の授業参観を行い、当校の職員だけでなく、他校の教員も招き、授業の考察を行った。学生たちがそれぞれの専門性に基づく自職種、他職種の視点の違いに気づき、相互に尊重し合う姿から、多職種連携に必要な能力の育成について示唆を得ることができた。
- ・各学科、授業参観の実施を計画しているが、人員不足等もあり、時間的都合が合わない等の理由により実施できない学科もあったが、演習など共同授業を通して、応援教員からのフィードバックを自身の教育活動へ活かしていた。一部の学科では自学科の授業参観を積極的に実施するだけでなく、他学科の教員を自学科の授業参観に促すなど、学科を超えた学び合いを実施している。職種を超えた教育の在り方を検討し合える機会が広がれば良いと考える。
- ・研究倫理審査会の開催案内などを通して、研究への取り組みを考えるきっかけとなった。研究活動としての実践は、日々の授業研究にとどまっている。

○課題

- ・授業参観の実施が充実できていない学科がある。
- ・研究調査活動は十分行うことができていない。

○改善策

- ・引き続き学科内の研究授業、授業参観を積極的に実施するための計画を立案し、他学科を巻き込んだ授業参観を促すなど、学び合いの場を広げていく。
- ・各学科、授業参観のまとめや授業総括の学科内での共有等から授業研究に取り組み、小さなことでも研究疑問を持つなど研究に慣れる環境づくりから進めていく。

6) 管理運営・財政

資料 7, 14～15, 22

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none">・予算計画、年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。・災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	4.3

- ・組織的に経費の節約・節減を行い、計画的に予算執行を行っている。
- ・ハラスメント防止対策については、県立3校で調整しハラスメントの防止等に関する規程の見

直しをした。令和7年度版の学生便覧に掲載し、教職員及び学生に十分周知していく。

- ・学生から提案箱を利用する形で、学校に対する意見を複数いただいたため、学校としての取り組みや改善策について検討し、学生にフィードバックした。また、学生生活実態調査や学校運営評価の結果については教員間で共有している。学生の利便性を考え、Logo フォームを用い、QR コードを読み取りアンケート調査を依頼したが回収率は減少した。学校として学生への働きかけの工夫が必要であった。
- ・法改正に伴い、新たに障害学生支援規程等の整備を行った。(R7.4.1 施行)
- ・災害時に整えておくべき学校管理や教室、教務室内など身近な危険個所については職員研修で確認した。しかし、実質の取り組みは不十分である。また、不審者侵入に対しての監視体制もなく今後の対策が必要と考える。

○課題

- ・学校運営に対する学生からの意見は少なく、学生自身が学校運営に興味関心が低い。
- ・災害対策、防犯体制についての充実に向けた実質的な取り組みができていない。

○改善策

- ・学校運営に学生が意見を述べやすい環境づくりをしていく。
- ・引き続き予算内でどのような整備ができるか優先度を考えて整備をする。また、数年先を見越して予算案を立てていく。また、防犯に関する学習会などを計画する。

7) 施設設備

資料 2 2

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none">・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。	3. 6

- ・今年度9月より校務支援システムが導入され、令和7年度から運用する。ICT 推進委員を中心となり、計画的に機能を活用できるように進めている。現在は各学科とも戸惑いがあるものの、今後は業務のスリム化やペーパーレスにも効果が期待される。
- ・Wi-fi 環境は不十分であり、タブレットも複数台に不具合が生じるなど、ICT 機器を自由に学習教材として利用できる環境は整っているとはいえない。パソコンについても学科間で譲り合いながら利用している状況があったため、学生の私物のパソコンの持ち込みを許可することで、学習環境の改善につなげた。
- ・実習室の備品は計画に則って整備している。
- ・図書室の利用は減少傾向にあるが、司書が常駐しており、学生の図書離れを食い止めるため、新刊本の案内をリーフレットにして掲示する、返却日時のお知らせに季節の花をあしらった葉を用いるなど創意工夫をしている。その他、学生が研究に取り組む際、司書から文献検索のサポートも受けているため、機会をとらえて書籍に馴染むような働きかけも有効と考える。
- ・7月に新入生と語る会を実施し、学生の率直な意見や要望をいただき、実習室内の更衣スペースを確保する、飲料だけでなく、軽食も含めた自動販売機の設置を検討し、令和7年度設置することとした。

○課題

- ・校務支援システムの運用にあたり、担当業者と調整しながら効果的な活用を進めている最中である。Web ポータル活用のための Wi-fi 環境の拡充が必要である。
- ・学生の書籍離れの影響もあり、図書室の利用は減少している。

○改善策

- ・ICT 推進委員が中心となり、各学科で校務支援システム活用における課題を共有し、積極的に活用していく。Wi-fi 環境の整備については、高額な予算が必要なため、主管課とも連携し計画的に整備していく。
- ・図書委員会や司書と連携し、図書室の利用促進を図り、機会をとらえて書籍や文献の活用を促す。

8) 広報・社会貢献、地域活動

資料 1 2

評価項目	評価点
・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。	3. 8

- ・今年度は、人材確保委員会を中心に SNS を活用した自校のアピールに力を入れた。中でも、若い世代に広く利用されている、X、インスタグラムを開設し、少しでも興味関心を持ってもらえるような活動をしている。次年度はこれらの活動の成果についても評価したい。
- ・学校や職業の P R のために、助産学科では、継続的に小学生を対象に「いのちの授業」を展開しているが、今年度は新聞掲載にもつながり、地域の方々にも活動を知って頂く機会となった。そのほか、歯科衛生学科では、近隣中学校で 1 ~ 3 年生を対象に、歯科衛生士の職種について出前授業を実施した。
- ・一部の学科では、出前授業やボランティアを通して近隣施設との連携を積極的に図る等、地域に根づいた学校づくりを意識して取り組んでいる。

○課題

- ・可能な範囲で様々な広報活動に取り組んでいるが、認知度拡大による効果が明確でない。
- ・日常的なボランティア活動への取り組みは学科により差がある。

○改善策

- ・SNS を活用した自校のアピール方法（X、インスタグラム）の効果について評価する。
- ・ボランティアの募集があれば案内する。また、学生自治会へも学生の自主的な活動等の働きかけを行う。

4 組織目標や計画の総合的な評価結果

令和 6 年度の組織目標や学校運営計画における各評価項目の達成状況については、「2 学校運営」「3 入学・卒業対策」「4 学生生活への支援」「5 教職員の育成」「6 管理運営・財政」において評価点が昨年度を上回り、「1 学校経営」「7 施設設備」「8 広報・社会貢献・地域活動」は同じという結果となった。評価点は、5 項目で 4. 0 以上、その他 3 項目が 3. 5 以上であり、目標は概ね達成できた。